
為替相場展望

2013年12月

 株式会社 **日本総合研究所**

調査部 マクロ経済研究センター

<http://www.jri.co.jp/report/medium/publication/exchange>

目次

- ◆為替相場概説 p. 1
- ◆ドル円、ユーロ相場の回顧 p. 2
- ◆リスク選好地合いで動意づいたドル円相場 p. 3
- ◆ECBの予想外の利下げ後も底堅く推移するユーロ p. 5
- ◆ドル円、ユーロ相場の見通し p. 6
- ◆内外市場データ p. 7

調査部 マクロ経済研究センター

井上 肇 (Tel : 03-6833-0920 Mail : inoue.hajime@jri.co.jp)

◆本資料は、2013年12月5日9:00時点で利用可能な情報をもとに作成しています。

為替相場概説 (2013年12月)

1. ドル円、ユーロ相場の回顧

<11月のドル円相場>

月初は、米FRBの量的緩和縮小観測の高まりを受けて、リスク回避の動きが強まり、97円台まで円高に振れる場面があったものの、その後は、米国景気の回復期待が高まる一方、FRBが金融引き締めを急がないとの期待も維持されるなか、リスク選好の動きが強まり、102円台まで円安ドル高が進行。

<11月のユーロ円相場>

上旬は、ECBの予想外の利下げを受けて、131円台までユーロが急落する場面があったものの、その後は、①ユーロ圏景気の回復期待の高まり、②米国が金融引き締めを急がないとの期待、③ドイツでの連立政権合意、等を背景に、リスク選好の動きが強まったこと等から、139円台までユーロ高が進行。

2. リスク選好地合いで動意づいたドル円相場

11月中旬以降、円安ドル高基調が鮮明に。最近のドル円相場に大きな影響を与えてきたのは、日米金利差と投資家のリスク許容度。11月中旬以降は、米景気指標が改善を受けて量的緩和縮小観測が高まったものの、イエレン次期FRB議長の議会公聴会での金融引き締めを急がない旨の発言等を受けて、米国金利の上昇が抑制。このことが株高を通じて投資家のリスク許容度を上昇させ、円安ドル高が進みやすい地合いになったとの見方が可能。

一方、11月中旬以降の急速な円安は、投機筋などの海外投資家によって主導された公算大。これまで投機筋を含め海外投資家は日本株買い・円売りを相乗的に進めてきたことを踏まえると、米国の量的緩和縮小や財政問題をめぐる不透明感の高まり等をきっかけに、株価が調整色を強めれば、一時的に円高圧力が増幅される恐れ。

当面は、底堅い米国景気とFRBの金融引き締めに慎重な姿勢を背景に、株高等を通じて投資家のリスク許容度が高まりやすく、円安ドル高が進みやすい地合いが続く公算が大きいものの、足許の円安は投機筋が主導している側面が強く、一時的に円高への調整が生じる可能性も。

中期的な観点でドル円相場を取り巻く環境を展望しても、①今後、米国景気の回復基調の強まりが期待されること、②日米金融政策の方向性の違いが明確化していくこと、③わが国貿易赤字の定着を主因に需給面で円高圧力が後退した状態が続くと見込まれること、等から、円安ドル高が進みやすい地合いが続く見通し。

3. ECBの予想外の利下げ後も底堅く推移するユーロ

11月のユーロの対ドル相場は、ECBが市場予想に反して利下げに動いたことから、月初に1.32ドル台まで急落したものの、その後は徐々に持ち直し。利下げ直後には、独米金利差、及びユーロ圏周辺国10年債利回りの対独スプレッドから試算される適正水準(推計値)付近までユーロ安に振れたものの、その後は再びユーロ高方向にかい離。

当面を展望しても、①ユーロ圏の通貨供給量減少、②ユーロ圏の経常黒字拡大、③ユーロ圏のデフレーション傾向、等を背景に、ユーロ高バイアスがかけやすい状況が続く見通し。もっとも、米FRBの量的緩和縮小着手が予想される年明け以降は、米欧の通貨供給量格差による(ドル安)ユーロ高バイアスが和らぎ、ユーロが反落するリスク。

4. ドル円、ユーロ相場の見通し

<ドル円相場の見通し>

当面は、米量的緩和縮小や財政問題を巡る不透明感が残存するなか、一時的に円高方向に調整が生じる可能性があるものの、①米国景気の回復基調の強まり、②日米金融政策の方向性の違い、③わが国貿易赤字の定着、等を背景に、緩やかな円安ドル高基調が続く見通し。

<ユーロ円相場の見通し>

当面は、①主要国での景気回復期待や株高等を受けたリスク選好の動き、②ユーロ圏のマネタリーベース縮小、③ユーロ圏の経常黒字拡大、等を背景に、ユーロが底堅く推移する見通し。もっとも、脆弱なユーロ圏景気やインフレ率の低迷を背景に、ECBの低金利長期化が予想されることから、ユーロの上値は限られる見込み。

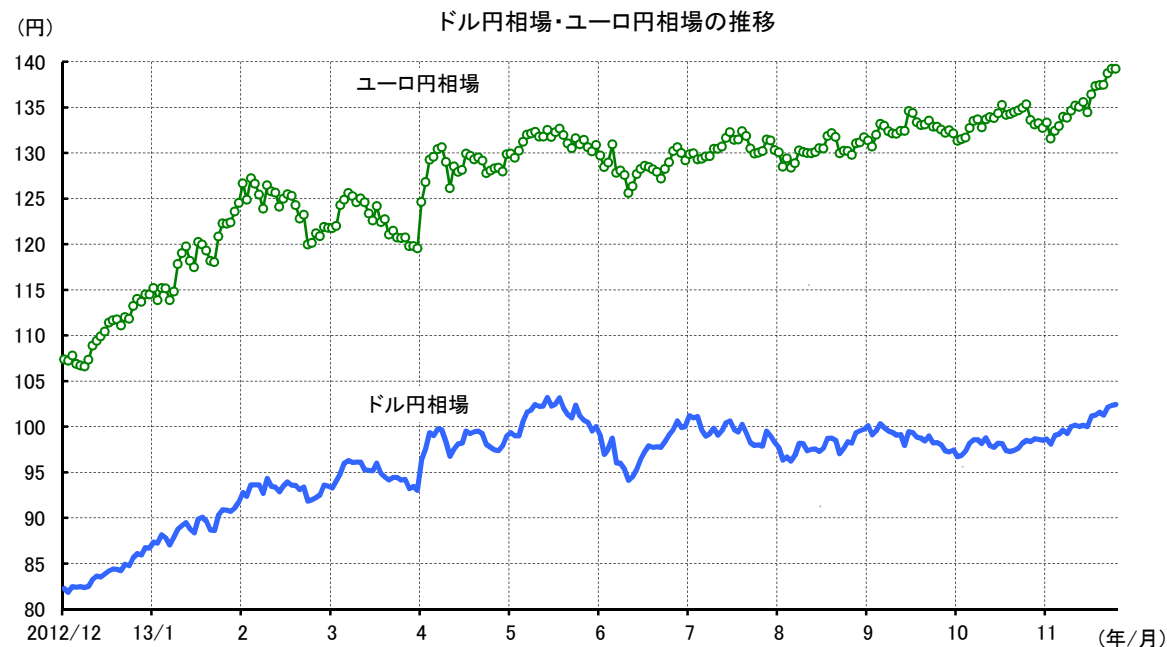
米国などで景気回復期待が高まる一方、金融緩和継続期待も維持されるなか、リスク選好の動きが強まり、対ドル、対ユーロで円安が進行。

<11月のドル円相場>

上旬は、米F R Bの量的緩和の縮小観測の強まりを受けて、リスク回避の動きが強まり、97円台まで円高に振れる場面があったものの、その後、米10月雇用統計が市場予想を上回ったことを受けて、99円台を回復。中旬以降は、①イエレン次期F R B議長の公聴会での金融引き締めを急がない旨の発言を好感して国内外で株価が上昇し、リスク選好の動きが強まったこと、②10月の米F O M C議事録で数ヵ月以内の資産購入減額の可能性が議論されていたことが判明したこと、等を受けて、断続的に100円台を回復。月末にかけては、黒田日銀総裁等の発言を受けた日銀の追加金融緩和観測の高まり等も加わり、102円台まで続伸。

<11月のユーロ円相場>

上旬は、7日のE C Bによる予想外の利下げ等を受けて、一時131円台前半までユーロ安が進行したものの、中旬以降は、①ユーロ圏での景気指標の改善、②イエレン次期F R B議長の公聴会での金融引き締めを急がない旨の発言、等を背景に、リスク選好の動きが強まり、135円台後半までユーロが上昇。その後、米F O M C議事録を契機とする米国での量的緩和早期縮小観測を受けた対ドルでのユーロ安につれて、一時ユーロが下落する場面があったものの、月末にかけては、①ドイツでの連立政権合意等を受けたリスク選好の動きの強まり、②インフレ率の持ち直し等を受けたE C Bの追加金融緩和観測の後退、等も加わり、139円台後半までユーロが続伸。



(資料)Bloomberg L.P.

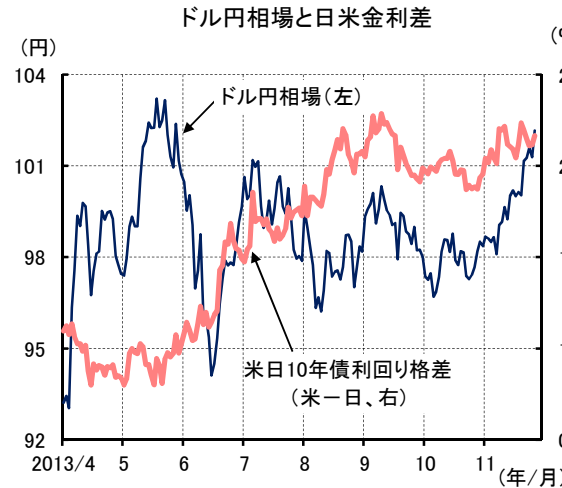
一時的な調整を挟みながらも、底堅い米国景気とFRBの金融引き締めに慎重な姿勢を背景に、リスク選好の円安が進みやすい地合いが続く公算大。

バーナンキFRB議長が量的緩和縮小の可能性に言及した5月下旬以降、ドル円相場は90円台後半を中心に一進一退の推移を続けてきたものの、11月中旬以降、円安ドル高基調が鮮明に。

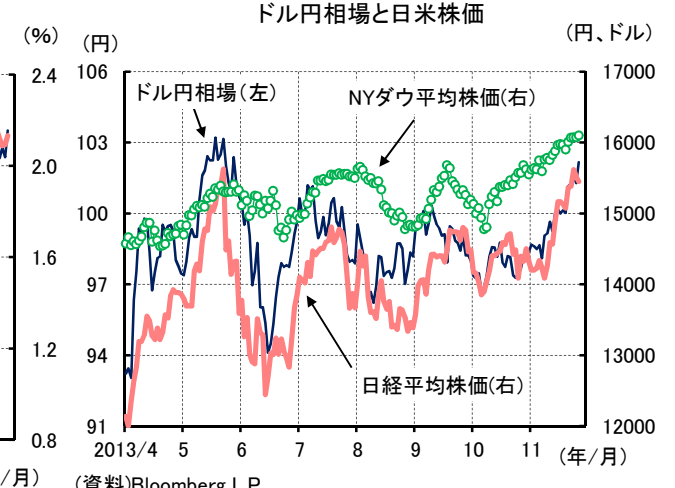
最近のドル円相場に大きな影響を与えてきたのは、日米金利差と投資家のリスク許容度。今年5～6月や8月は、量的緩和縮小観測の高まりにより、米国金利が上昇(日米金利差が拡大)しても、米国金利上昇を嫌気した株安等を通じて投資家のリスク許容度が低下し、ドル円相場が膠着しやすい地合いに。一方、11月中旬以降は、米景気指標の改善を受けて量的緩和縮小観測が高まったものの、イエレン次期FRB議長の議会公聴会での金融引き締めを急がない旨の発言等を受けて、米国金利の上昇が抑制。このことが株高を通じて投資家のリスク許容度を上昇させ、円安ドル高が進みやすい地合いになったとの見方が可能。

一方、円の売り手についてみると、11月中旬以降の急速な円安は、投機筋などの海外投資家によって主導された公算大。海外投機筋の動きを示すとされるIMM通貨先物取引における対ドルでのネット円ポジションをみると、円売りポジションがリーマン・ショック以降の最高水準まで拡大。これまで投機筋を含め海外投資家は日本株買い・円売りを相乗的に進めてきたことを踏まえると、米国の量的緩和縮小や財政問題をめぐる不透明感の高まり等をきっかけに株価が調整色を強めれば、一時的に円高圧力が増幅される恐れ。

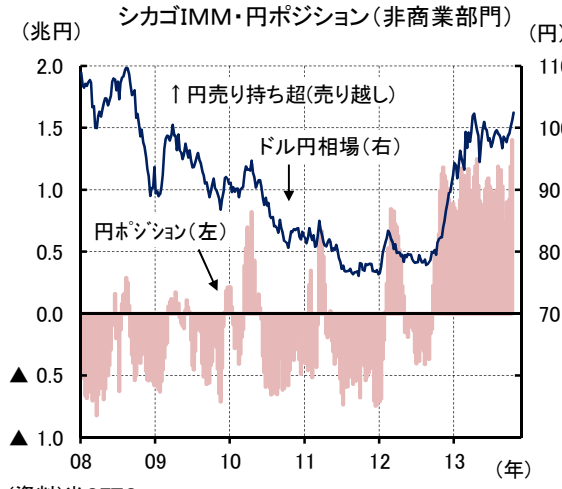
以上を踏まえると、当面は、底堅い米国景気とFRBの金融引き締めに慎重な姿勢を背景に、株高等を通じて投資家のリスク許容度が高まりやすく、円安ドル高が進みやすい地合いが続く公算が大きいものの、足許の円安は投機筋が主導している側面が強く、一時的に円高への調整が生じる可能性も。



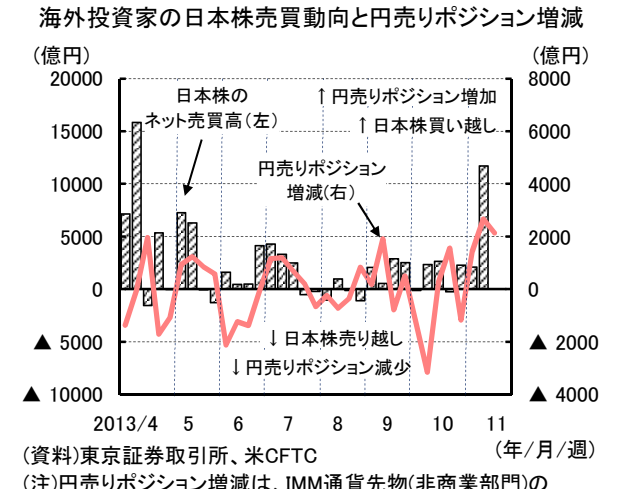
(資料)Bloomberg L.P.



(資料)Bloomberg L.P.
(注)単位は、日経平均株価は円、NYダウ平均株価はドル。



(資料)米CFTC



(資料)東京証券取引所、米CFTC
(注)円売りポジション増減は、IMM通貨先物(非商業部門)の前週からの増減。

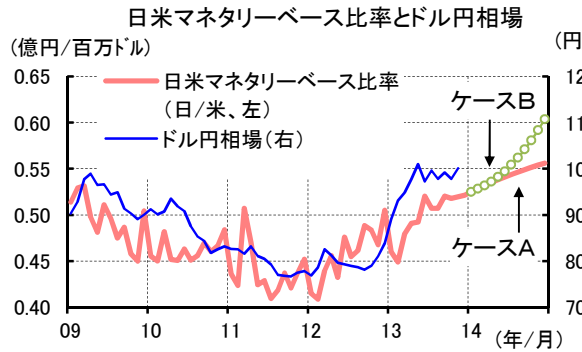
中期的な観点でも、米国景気の回復基調の強まり、日米金融政策の方向性の違い、等を背景に、円安ドル高が進みやすい地合いが続く見通し。

中期的な観点でドル円相場を取り巻く環境を展望しても、円安ドル高が進みやすい地合いが続く見通し。第1に、今後、米国景気の回復基調の強まりが期待。当面は、財政政策を巡る不透明感が景気抑制に作用するものの、債務調整の進展や住宅市場の持ち直しを背景に家計部門の底堅さが増すなか、景気の回復基調が強まってくる見通し。米FRBが量的緩和縮小に着手しても、利上げなどの金融引き締めを急がない姿勢を示すなか、米長期金利が景気回復に見合った緩やかなペースで上昇していけば、日米金利差の緩やかな拡大や投資家のリスク許容度の高まりがドル円相場を下支えする公算大。

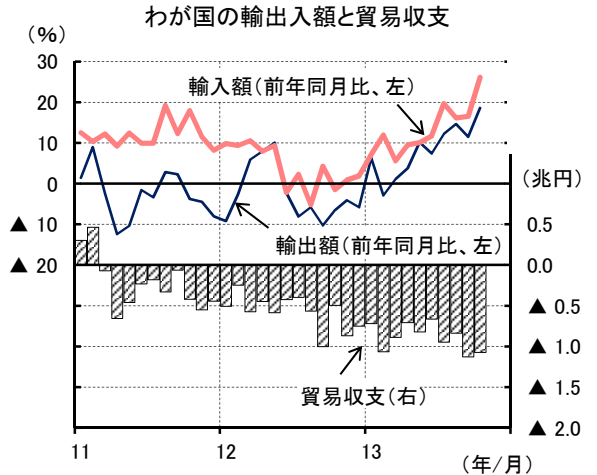
第2に、日米金融政策の方向性の違いが明確化していること。2%の物価目標達成に向けて日銀の量的緩和継続が見込まれる一方、年明け以降、FRBが量的緩和縮小に着手すれば、日米マネタリーベース比率で測られる日米の金融緩和度合いの格差が円安ドル高に作用する公算。

第3は、わが国貿易赤字の定着を主因に需給面で円高圧力が後退した状態が続くと見込まれること。10月の貿易赤字が1兆円を超え、10月としては1979年以降で最大の赤字を記録。先行き輸出の増加により貿易収支の改善が期待されるものの、現状では輸出価格は上昇する一方で、輸出数量の増加基調が明確化しておらず、当面は、高水準の貿易赤字が続く公算大。

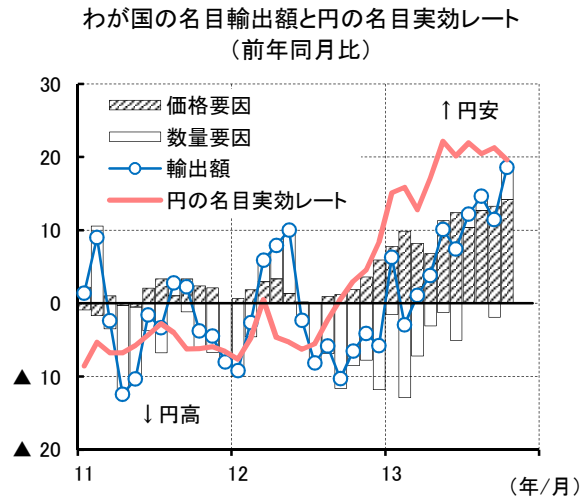
なお、中期的に円安が持続するには、円安が投機筋のみによって主導されるのではなく、円の売り手として、10月から11月にかけてみられたように、国内投資家の対外証券投資が活発化していくことが必要。



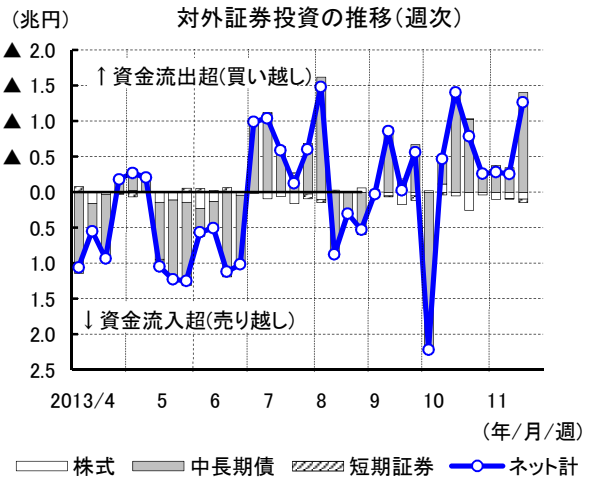
(資料)日銀、米FRB
 (注1) ケースAは、FRBが2014年末まで現行の規模で資産買入れを続けるケース、ケースBは、2014年3月から年末にかけて段階的にゼロまで資産買入れ規模を縮小するケース。
 (注2) なお、左右の目盛の対応関係が日米マネタリーベース比率に見合うドル円相場の適正水準を示しているわけではない。



(資料)財務省
 (注)貿易収支は、季節調整値。



(資料)財務省、日銀



(資料)財務省「対外及び対内証券売買契約等の状況」

ユーロ圏の通貨供給量減少や経常黒字拡大等を背景に、ユーロ高バイアスがかかりやすいものの、米量的緩和縮小着手により、ユーロが反落するリスク。

11月のユーロの対ドル相場は、ECBが市場予想に反して利下げに動いたことから、月初に1.32ドル台まで急落したものの、その後は徐々に持ち直し。利下げ直後には、独米金利差、及びユーロ圏周辺国10年債利回りの対独スプレッドから試算される適正水準(推計値)付近までユーロ安に振れたものの、その後は再びユーロ高方向にかい離。

当面を展望しても、ユーロ高バイアスがかかりやすい状況が続く見通し。第1に、ユーロ圏の通貨供給量減少。ユーロ圏では、域内銀行からECBへの長期流動性供給資金(LTRO)の返済により、マネタリーベースの縮小が継続する一方、米国では、FRBの量的緩和縮小先送りにより、マネタリーベースの拡大が継続。この結果、米欧マネタリーベース比率(米欧の通貨供給量格差)で測られる米欧の金融緩和度合いの格差が引き続きドル安ユーロ高に作用しやすい状況。

第2に、ユーロ圏の経常黒字拡大。域内需要低迷による輸入減少や、海外景気の持ち直しとユーロ加盟国の一部での輸出競争力の改善による輸出増加により、ユーロ圏の経常黒字が拡大傾向。過去においても、ユーロ圏の経常収支が黒字の局面では、ユーロが上昇、ないしは底堅く推移する傾向を看取。

第3は、ユーロ圏のデシインフレ傾向。ユーロ圏のインフレ率が今後一段と低下すれば、ECBが追加金融緩和に踏み切り、ユーロ安に振れる可能性はあるものの、インフレ率が一段と低下しない限り、ECBは様子見姿勢を続ける公算大。購買力平価の観点からは、デシインフレはユーロ高圧力に。

もっとも、米FRBの量的緩和縮小着手が予想される年明け以降は、米欧の通貨供給量格差による(ドル安)ユーロ高バイアスが和らぎ、ユーロが反落するリスク。

ユーロドル相場の実勢値と推計値

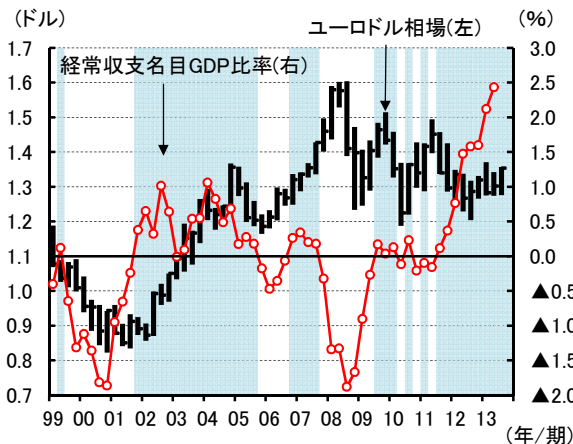


(資料)Bloomberg LPを基に日本総研作成 (年/月末)

(注)推計式: $Y = 0.15 * X_1 - 0.02 * X_2 + 1.38$
(44.1) (-18.5) (398.1)

推計期間は、2011年7月初～2013年10月末。修正R²=0.78
Y=ユーロドル相場、X₁=独米2年債利回り格差、
X₂=周辺国10年債利回りの対独スプレッド、カッコ内はt値。

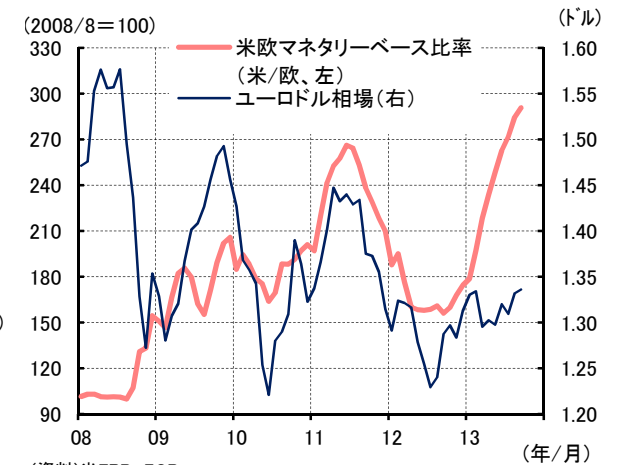
ユーロドル相場とユーロ圏経常収支名目GDP比率



(資料)ECB, Eurostat, Bloomberg LP.

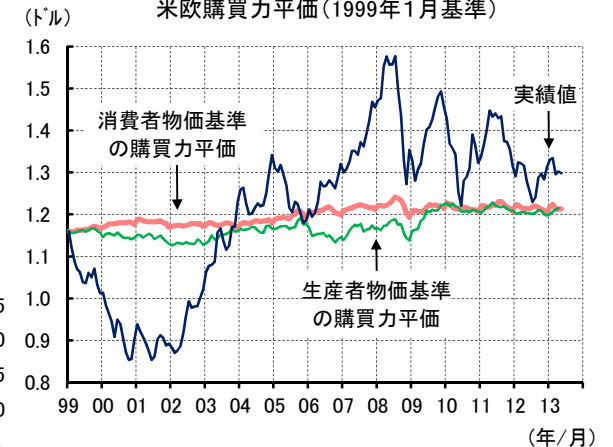
(注)シャド一部は経常収支が黒字の局面。

米欧マネタリーベース比率とユーロドル相場



(資料)米FRB, ECB (年/月)

米欧購買力平価(1999年1月基準)



(資料)米労働省, Eurostat, Bloomberg LP.をもとに日本総研作成

【ドル円】一時的な調整を挟みながらも、円安ドル高基調が続く見通し。

【ユーロ】当面はユーロの底堅い推移を見込むも、上値は限られる見通し。

＜ドル円相場の見通し＞

急ピッチな円安が進行するなか、米国の量的緩和縮小や財政問題をめぐる不透明感の高まりなどをきっかけに、一時的に円高方向に調整が生じる可能性。

もっとも、米国景気の底堅さや、FRBの金融引き締めを急がないスタンスを背景に、株高等を通じて投資家のリスク許容度が高まりやすく、円安ドル高が進みやすい地合いが続く公算大。

中期的な観点でみても、①米国景気の回復基調の強まり、②金融政策の正常化に向かう米FRBと金融緩和長期化が予想される日銀という日米金融政策の方向性の違い、③わが国貿易赤字の定着を主因にした需給面での円高圧力後退、等を背景に、円安ドル高が進みやすい地合いが続く見通し。

＜ユーロ相場の見通し＞

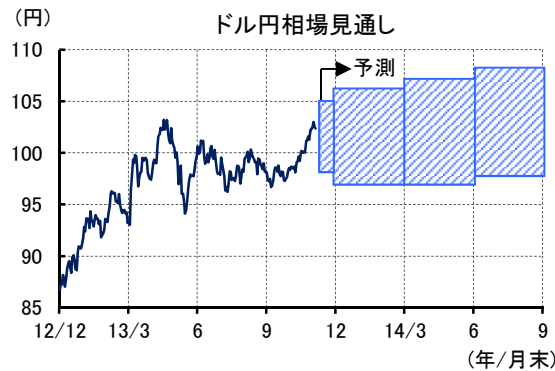
当面は、①主要国での景気回復期待や株高等を受けたリスク選好の動き、②ユーロ圏のマネタリーベース縮小、③ユーロ圏の経常黒字拡大、等を背景に、対ドル、対円でユーロが底堅く推移する見通し。もっとも、脆弱なユーロ圏景気やインフレ率の低迷を背景に、ECBの低金利長期化が予想されることから、ユーロの上値は限られる見込み。

対ドルでは、低金利長期化が見込まれるECBと金融政策の正常化に向かうFRBとの金融政策の方向性の違いを反映して、中期的にはユーロ安が進む公算大。

ドル円相場見通し

	2013年		2014年		
	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9
期中平均	98.9	100	101	102	103
(高値)	101.5	105	106	107	108
レンジ	5	5	5	5	5
(安値)	95.8	98	97	97	98

予測



ユーロ円相場見通し

	2013年		2014年		
	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9
期中平均	131.0	136	136	137	137
(高値)	135.0	142	142	143	143
レンジ	5	5	5	5	5
(安値)	128.0	132	130	131	131

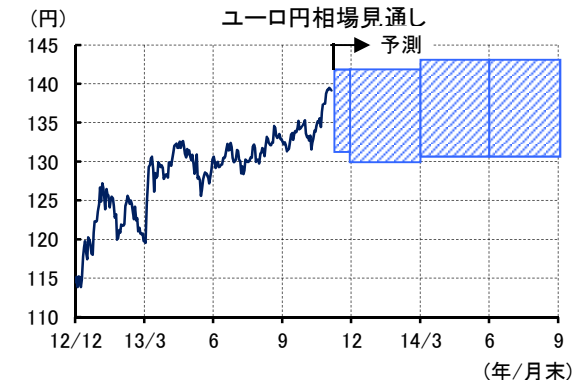
予測

142.8

ユーロドル相場見通し

	2014年				
	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9
期中平均	1.32	1.36	1.35	1.34	1.33
(高値)	1.36	1.39	1.40	1.39	1.38
レンジ	5	5	5	5	5
(安値)	1.28	1.33	1.30	1.29	1.28

予測



内外市場データ（月中平均）

	為替相場			国内市場				米国市場					欧州市場					商品市況	
	¥/\$ (NY終値)	¥/€ (NY終値)	\$/€ (NY終値)	無担0/N (%)	TIBOR 3ヵ月 (%)	国債 10年物 (%)	日経平均 株価 (円)	FF 0/N (%)	LIBOR 3ヵ月 (%)	国債 10年物 (%)	NYダウ 工業株 (ドル)	S&P500	EONIA (%)	EURIBOR 3ヵ月 (%)	独国債 10年物 (%)	英国債 10年物 (%)	ユー・ ストックス50	WTI 原油先物 (\$/B)	COMEX 金先物 (\$/TO)
10/12	83.22	110.06	1.3227	0.0869	0.34	1.19	10254.46	0.18	0.30	3.28	11465.26	1241.53	0.50	1.02	2.96	3.50	2825.58	89.23	1392.60
11/1	82.62	110.49	1.3374	0.0848	0.34	1.21	10449.53	0.17	0.30	3.36	11802.37	1282.62	0.66	1.02	3.05	3.60	2900.69	89.58	1361.02
11/2	82.57	112.80	1.3662	0.0934	0.34	1.28	10622.27	0.16	0.31	3.56	12190.00	1321.12	0.71	1.09	3.23	3.77	3015.73	89.74	1375.12
11/3	81.64	114.45	1.4019	0.0846	0.34	1.25	9852.45	0.14	0.31	3.40	12081.48	1304.49	0.66	1.18	3.25	3.60	2890.36	102.98	1422.91
11/4	83.17	120.35	1.4473	0.0623	0.33	1.27	9644.62	0.10	0.28	3.43	12434.88	1331.51	0.97	1.32	3.35	3.63	2947.16	110.04	1485.41
11/5	81.15	116.24	1.4326	0.0693	0.33	1.14	9650.78	0.09	0.26	3.15	12579.99	1338.31	1.03	1.43	3.11	3.36	2885.77	101.36	1512.55
11/6	80.47	115.89	1.4401	0.0685	0.33	1.13	9541.53	0.09	0.25	2.99	12097.31	1287.29	1.12	1.49	2.97	3.25	2766.61	96.29	1528.62
11/7	79.27	113.30	1.4293	0.0731	0.33	1.11	9996.68	0.07	0.25	2.98	12512.33	1325.18	1.01	1.60	2.79	3.13	2743.46	97.34	1574.62
11/8	77.05	110.46	1.4339	0.0806	0.33	1.02	9072.94	0.10	0.29	2.29	11326.62	1185.31	0.91	1.55	2.25	2.55	2297.21	86.34	1763.99
11/9	76.86	105.70	1.3752	0.0801	0.33	1.00	8695.42	0.08	0.35	1.96	11175.45	1173.88	1.01	1.54	1.87	2.41	2124.31	85.61	1771.92
11/10	76.68	105.26	1.3728	0.0814	0.33	1.01	8733.56	0.07	0.41	2.13	11515.93	1207.22	0.96	1.58	2.04	2.50	2312.30	86.43	1671.25
11/11	77.54	105.09	1.3554	0.0768	0.33	0.99	8506.11	0.08	0.48	2.00	11804.33	1226.41	0.79	1.49	1.95	2.24	2239.58	97.16	1739.43
11/12	77.84	102.35	1.3149	0.0778	0.33	1.00	8505.99	0.07	0.56	1.97	12075.68	1243.32	0.63	1.43	1.99	2.11	2283.30	98.58	1638.58
12/1	76.93	99.33	1.2912	0.0805	0.33	0.97	8616.71	0.08	0.57	1.93	12550.89	1300.58	0.38	1.22	1.86	2.04	2382.07	100.32	1657.22
12/2	78.60	104.06	1.3237	0.0849	0.33	0.96	9242.33	0.10	0.50	1.96	12889.05	1352.49	0.37	1.05	1.90	2.13	2508.24	102.26	1741.61
12/3	82.55	109.07	1.3214	0.0840	0.33	1.00	9962.35	0.13	0.47	2.16	13079.47	1389.24	0.36	0.86	1.88	2.25	2532.18	106.20	1676.67
12/4	81.27	106.99	1.3164	0.0745	0.33	0.95	9627.42	0.14	0.47	2.03	13030.75	1386.43	0.35	0.74	1.73	2.12	2340.78	103.35	1649.74
12/5	79.68	101.90	1.2788	0.0836	0.33	0.85	8842.54	0.16	0.47	1.78	12721.08	1341.27	0.34	0.69	1.46	1.87	2198.50	94.72	1587.68
12/6	79.35	99.57	1.2548	0.0764	0.33	0.84	8638.08	0.16	0.47	1.61	12544.90	1323.48	0.33	0.66	1.43	1.67	2152.74	82.41	1600.53
12/7	78.98	97.09	1.2293	0.0836	0.33	0.77	8760.68	0.16	0.45	1.50	12814.10	1359.78	0.18	0.50	1.31	1.55	2258.36	87.93	1593.68
12/8	78.68	97.59	1.2404	0.0863	0.33	0.80	8949.88	0.13	0.43	1.67	13134.90	1403.44	0.11	0.33	1.42	1.57	2424.50	94.16	1630.27
12/9	78.16	100.62	1.2874	0.0848	0.33	0.80	8948.59	0.14	0.39	1.70	13418.50	1443.42	0.10	0.25	1.55	1.77	2530.69	94.56	1745.83
12/10	79.01	102.47	1.2970	0.0849	0.33	0.77	8827.39	0.16	0.33	1.72	13380.65	1437.82	0.09	0.21	1.52	1.80	2503.47	89.57	1744.43
12/11	81.05	104.07	1.2838	0.0856	0.32	0.74	9059.86	0.16	0.31	1.65	12896.44	1394.51	0.08	0.19	1.39	1.79	2513.98	86.73	1722.91
12/12	83.91	110.16	1.3127	0.0822	0.32	0.74	9814.38	0.16	0.31	1.71	13144.18	1422.29	0.07	0.19	1.36	1.85	2625.55	88.25	1683.45
13/1	89.10	118.53	1.3302	0.0828	0.30	0.77	10750.85	0.14	0.30	1.88	13615.32	1480.40	0.07	0.21	1.56	2.04	2715.30	94.83	1671.17
13/2	93.13	124.24	1.3339	0.0866	0.28	0.74	11336.44	0.15	0.29	1.97	13967.33	1512.31	0.07	0.22	1.60	2.11	2630.40	95.32	1626.95
13/3	94.87	122.92	1.2957	0.0780	0.25	0.60	12244.03	0.14	0.28	1.94	14418.26	1550.83	0.07	0.21	1.41	1.89	2680.18	92.96	1593.62
13/4	97.75	127.35	1.3025	0.0721	0.24	0.57	13224.06	0.15	0.28	1.73	14675.91	1570.70	0.08	0.21	1.25	1.71	2636.35	92.07	1485.09
13/5	100.99	131.05	1.2978	0.0734	0.23	0.78	14532.41	0.11	0.27	1.92	15172.18	1639.84	0.08	0.20	1.37	1.86	2785.77	94.80	1416.61
13/6	97.29	128.40	1.3200	0.0743	0.23	0.85	13106.62	0.09	0.27	2.29	15035.75	1618.77	0.09	0.21	1.62	2.21	2655.76	95.80	1342.47
13/7	99.64	130.47	1.3095	0.0734	0.23	0.83	14317.54	0.09	0.27	2.56	15390.21	1668.68	0.09	0.22	1.63	2.36	2686.53	104.70	1288.07
13/8	97.80	130.25	1.3319	0.0735	0.23	0.75	13726.66	0.08	0.26	2.73	15195.35	1670.09	0.08	0.23	1.80	2.61	2803.85	106.54	1353.68
13/9	99.19	132.53	1.3362	0.0715	0.23	0.72	14372.12	0.08	0.25	2.80	15269.84	1687.17	0.08	0.22	1.93	2.89	2864.56	106.23	1350.93
13/10	97.83	133.43	1.3639	0.0700	0.22	0.63	14329.02	0.09	0.24	2.60	15289.29	1720.03	0.09	0.23	1.81	2.69	2988.88	100.55	1315.91
13/11	100.11	135.13	1.3497	0.0733	0.22	0.61	14931.74	0.08	0.24	2.71	15870.83	1783.54	0.10	0.22	1.72	2.74	3055.98	93.93	1275.16

(株)日本総合研究所 為替相場展望 2013年12月